

課題・研究期間・評価	廃棄物処理施設等における再生利用促進事業 研究期間：H20～H22 評価： 4（高く評価できる）	意見1	・再生利用の実用化によって、費用の面でどのくらい有効なのか、検討する必要がある。
		対応	・再生利用時の単価のみでなく、最終処分場の延命化による波及効果も試算し、関係事業者と協議しながら総合的に費用面の有効性を明らかにしていく。
		意見2	・アスファルト舗装などに混入される廃棄物については、環境中に拡散する可能性があり、特にアスファルト舗装では、車両による粉塵飛散に伴う人への健康被害も考えられるため、用途を限定するなどの工夫や対策が必要である。
		対応	・溶融スラグ混合アスファルト試験舗装材の溶出試験結果は、現段階では土壌の環境基準に適合しているが、長期的安定性等について、継続事業の中で、理化学・物性の両面から引き続き検討する。
		意見3	・溶融スラグ中の鉛の含有量の変動が大きいなど、まだ改善点が残されている。将来に環境負荷を残すことのないように調査研究の目的を明確に設定した上で、今後の検討が必要である。
		対応	・関係事業者では溶融スラグの品質向上に取り組んでおり、その成果も出て来ているが、溶融スラグ利用時の環境負荷削減に向けては、長期的環境影響評価も含めてさらに検討を進める。